

山口大学ワンダーフォーゲル部 OB 会  
2005 年 OB 通信第二号

〒753-0841 山口市吉田 1677-1  
山口大学体育会ワンダーフォーゲル部 OB 会事務局  
URL <http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~tabidori/>  
E-mail [tabidori@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:tabidori@yamaguchi-u.ac.jp)

12 月中旬発行

# 目次

第1章	OB会より	1
1.1	新たな歴史を加えて	1
1.2	2005年 OB総会を終えて	2
1.3	2005・OB総会 大文字山山行記	3
1.4	OB会の名称について	3
1.5	2004年 会計報告	5
1.6	2004年 監査報告	7
1.7	2005年 関西総会会計報告	8
1.8	2005年 関西総会・懇親会出席者名簿	9
第2章	OB会員の皆様へ	11
2.1	お知らせ	11
2.2	2005年 OB総会・懇親会 in 京都	11
2.3	総会について	11
2.4	2005年 会計報告	12
2.5	2005年 関西総会・懇親会会計報告	12
2.6	OB会費納入について	12
2.7	入会、脱会について	12
第3章	現役活動報告 -本部-	13
3.1	執行部近況報告	13
3.2	夏合宿結果報告 南アルプス 鳳凰～甲斐駒～仙丈	13
3.3	アフター紹介 富士山	14
3.4	春合宿紹介 奄美大島ロードワンデリング	15
第4章	現役活動報告 -工学部-	17
4.1	執行部近況報告	17
4.2	夏合宿結果報告 北アルプス 上高地～槍～常念	17
4.3	80km 耐久徒歩結果報告	19
4.4	春合宿紹介 in 竹島 サバイバル	20

---

第 5 章	その他	21
5.1	Y.U.W.V. ホームページ . . . . .	21
5.2	編集後記 . . . . .	21

# 第1章

## OB会より

### 1.1 新たな歴史を加えて

OB会長 末國弘司

2006年を迎えようとしています。会員の皆様も人生に新しい歴史を加えられることとなります。

OB会も本年は関西地区（京都）での総会開催という歴史を加えました。2006年は再び関東で、新形式の総会という歴史を加えようとしています。

京都での総会は参加者67名で盛会裏に終了しました。毎月の会合を重ね成功に導かれた実行委員会の皆様に、改めて感謝の意を捧げます。また参加されました会員の皆様におかれましても、OB会を盛り上げようとする熱意が溢れ、頼もしく感じました。

OB会の主旨は、やがて半世紀を迎えようとする山大ワングル部のさらなる発展のためにバックアップすることが第一義であります。そのためにはOB間の連携が強固でなければなりません。そこでOB相互の、世代を超えた連帯を強めるべく、総会に併せて懇親会も企画しています。その目的は、徐々にではあるが達成されつつあると感じた、総会でもありました。

総会でもご報告しましたが、現在OB会の年間活動としては、総会の開催とOB通信の発行が2本柱となっています。その他OB会全体の事業としては、なかなか企画しづらいのが現状です。ただ、京都総会の懇親会で、「山小屋の建設を考え

てはどうか」「パキスタンの地震等、大規模災害にはOB会として寄付をしたらどうか」「もっと現役生との交流を」等の提案がありましたことを付記しておきます。いずれも今後の検討課題といたします。

しかし、当面の課題としては、事務局の問題があります。現在事務局は過去の経緯の延長線上で4年生、直前主将に依頼しています。組織の強化を図るためには事務局の体勢整備が不可欠です。できれば事務局を学外に固定化しOBが事務局長となり、直前主将は副事務局長格の事務局員として入ってもらい現役生との調整に当たるような組織ではどうだろうか、と考えています。

とはいえ、本年導入した事務局用パソコンのインターネット化一つにしても、ランニングコストが発生します。OB会の財政基盤の強化が、もう一つの課題として浮かび上がってきます。

収入源としては、現在は会費しかない訳ですから、収入増を図るためには会費の値上げか、会員数増しかありません。会費値上げは安易に取るべき手法ではないと思いますので、残る道は会員増です。現在会員数は約200、OBの総数637に対する割合（組織率）は約32%となります。この数字をどう評価するか、会員それぞれにご意見があるかと思いますが、私は低い方であると考えます。せめて、OBの半数以上は卒業後もワングル精神を持ち続ける情熱を絶やさずにいる欲しいと、願っています。OB会員増を一つの目標とし

て掲げたく思いますが、これを実現するには、会員一人一人が自分の同期、あるいは前後の期のOBでまだ未加入の人がいれば積極的に誘いをかけるよう、努力して頂くほかはありません。ここに、会員の皆様の力添えを切に願う次第です。

前述の事務局整備については、今期の任期満了時(2年後)までに何とか目途がつけばと、考えております。

最後になりましたが、2006年総会は東京支部が引き受けます。新形式の総会・懇親会にすべく秘策を練っていますので、多数の参加をお待ちします。なお、期日は例年より早めて9月下旬の連休となる予定です。

では会員の皆様におかれては良いお年を迎えられるように、またOB会も一層の発展が得られるよう、祈念いたします。

## 1.2 2005年 OB総会を終えて

2005年OB総会 関西地区実行委員会(代表)  
昭和40年卒 堺原 直毅

早いもので、京都での再会から1ヶ月半が経過しました。今は最後の紅葉時期です。

OB総会開催に当たり、当初関西は参加動機付けに乏しいきらいがあり、参加者確保に心配をしておりましたが、予想を大幅に上回る参加(大文字山登山を含めて)で、総会を盛り上げて頂きました事、厚くお礼申し上げます。特に総参加者67名のうち関東地区、九州地区から各14名また昭和50年卒、53年卒の方々の多数参加が特筆され、OB総会が着実に定着化してきているように感じました。

以下、OB総会までの経過、まとめ及び関西地区の現状につき、簡単にご報告させていただきます。

OB総会の幹事受諾を決めたのは、2004年8月関西地区第3回懇親会でした。翌2005年1月の第4回懇親会にて、実行委員14名を選出。3

月第1回実行委員会開催。

以後月1回ペースで会合を重ね、その間会場の下見、打合せ、大文字山登山コースの下見、検討を行いました。また6月には関西地区OBに対して、参加協力要請も発信しました。

OB総会開催に際して、留意した点として参加者を如何に確保するかで前年の福岡大会並を目標にすることにしました。関西の知名度と東西の中間に位置する立地条件の良さを生かす方策として、開催地区を京都に設定。運営上一番の課題は会場、宿泊場所の選定、確保が挙げられます。ポイントは参加者数の変動への対応力、京都相場が比較的高価なため、極力安価に利用できること。これについては長野氏のご尽力で祇園近くの三条「いろは旅館」を選定。結果的には開催直前まであった参加申込みに対応することができ、大いに助かりました。それから大文字山登山と展示コーナー「元気に山歩きしているOB達」(8名)を企画しました。大文字山登山には37名の参加があり、ワンダラーとしての情熱は今も失われていないと感じました。

展示コーナーはこれからのOB活動を展望して、現状紹介を企画したもので個人で経験された登山、トレッキングの紹介、今後の目標、計画などを写真添付にて展示しました。

OB活動として、近い将来登山、海外トレッキングなどが企画、実行できたらと期待しています。

今回のOB総会全般については天気も味方してくれて、多数の参集をいただき、旧交を温める機会を提供することが出来、古都京都の風情も楽しんでいただけたのではないかと考えています。OB総会もここ4年間で定着化し、今後の活動への具体的な取組みが求められると思われ、転換点にさしかかっているのではないのでしょうか。

開催に当り、本部役員、事務局、出展にご協力頂いた方々。私事で大阪を離れることが多かった

なか事務局で多くの労をとってくれた高木寛氏他  
実行委員の皆様重ねて深謝申し上げます。

#### 関西地区の活動状況について

古いことは不詳ですが、2003年山口大会の折  
関西在住メンバーで一度集まるのが提案され、  
同年11月28日 第1回懇親会が行われました。  
親睦、情報交換を目的に2004年 2回 2005  
年 1回実施。以後は実行委員会活動(7回)を  
行ってきた。現在、年配者中心の活動となっ  
ていますが、今O B総会を契機に若手の方の参加  
を促したいことと軽登山でも企画してメンバーの  
参加機会を増やせたらと考えています。

支部組織結成については、これからのテーマで  
すが検討のためのタイムテーブルは未だ出来てお  
りません。メンバーの皆さんの意見をよく聞いて  
進めてゆきたいと思います。

### 1.3 2005・O B総会 大文字山山行記

昭和53年卒 高月正彦

10月9日、昨日まで降り続いていた雨もあがり、  
絶好のハイキング日よりとなり、計画どおり  
大文字山への山行を行うことが出来ました。

当日は早朝より、京都のいろは旅館に集合後、定  
刻どおり地下鉄にて山科駅に向け出発しました。

山科駅にて合流した3名を含めO B総員37名、  
閑静な住宅街を秋山氏(52年卒)を先頭に快調な  
ピッチで大文字山に向けて出発、途中での休憩を  
含め約2時間の行程で大文字山の山頂に到着しま  
した。

山頂よりの景色を楽しんだ後、急な下り坂をお  
りると、今回の山行コースの中、唯一のセールス  
ポイントである大文字の火床に到着。秋雨前線活  
発な中、幸運にも天気恵まれ、眼下に広がる京  
都の眺望を楽しむことが出来ました。その後、全  
員での記念写真を撮影して下山、銀閣寺門前にて  
解散の形を取りながらも、多数は哲学の道を経て  
南禅寺を見学して地下鉄にていろは旅館に到着し

ました。

今回の山行には、想定していた以上の皆様方が  
参加して頂き、途中の人数の確認等の不安もあり  
ましたが、参加者の整然とした行動にそれらが杞  
憂に過ぎなかった事、大変感謝しています。

### 1.4 O B会の名称について

O B会長 末國弘司

O B会の名称について先般O B総会への出欠返  
信はがきで応募していただくようお願いしまし  
たが、その結果をお知らせします。

応募者数 35

応募名称総数 42(複数応募がありました)

#### 【名 称】

鳳翺会 6

ほうべん会 2

山口鳳翺会 1

鳳翺 1

山大ほうべん会 1

YUWVほうべんの会 1

鳳翺旅鳥会 1

鳳旅会 1

旅鳳会 1

鳳会 1

鳳友会 1

Higashi-Houben 1

山口大学ワンダーフォーゲル部O B会 1

山大ワンゲルO B会 1

山口大学ワンダーフォーゲル部O B会『旅鳥』  
1

YUWV O B会 1

旅鳥 1

Tabi Dori 1

旅鳥の家 1

親旅鳥の会 1  
山口旅鳥会 1  
わいゆうど 1  
碧山会 1  
山僊会 1  
ドリームワンダラーズ 1  
Mt . G U C H I 1  
Mt . 山大 1  
山緑会 1  
すおう会 1  
あすなる 1

以上ですが、やはり「鳳翩山」にちなんだ名称が18と、圧倒的に多い結果となっています。鳳翩山が山大ワンゲルの原点なのでしょうか。いずれにしても、この結果から見る限り、「鳳翩」にちなむものあるいは「鳳翩」を連想させる名称が、妥当なようです。

応募結果を参考に検討していきたいと考えていますが、OB諸氏のさらなるご意見を希望します。

1.5 2004年 會計報告

2004 年会計報告

1.6 2004 年 監查報告

## 1.7 2005年 関西総会会計報告

1.8 2005年 関西総会・懇親会出席者名簿



## 第2章

# OB 会員の皆様へ

### 2.1 お知らせ

会費未納の場合は自然脱会となっております。会費のお支払いはお忘れなきようお願い申し上げます。

納入状況につきましては、OB 名簿をご覧ください。なお 2005 年が未納の方と、2005 年まで納入の方にのみ、振り込みをお願いする紙を同封しております。

### 2.2 2005 年 OB 総会・懇親会 in 京都

2005 年 10 月 9 日 (日)、京都市東山区の「いろは旅館」において「2005 年 OB 総会・懇親会」が開催されました。総会には全国各地から 67 名 (前章“2005 年 関西総会・懇親会出席者名簿”を参照) の出席があり、現役部員としては、事務局の私と次期事務局の上岡が出席させていただきました。総会・懇親会の翌日に登山があった去年と違い、今年は京都市左京区の大文字山登山が午前から午後にかけておこなわれ、その後、総会・懇親会というながれになりました。登山は天候にも恵まれ、下山後の銀閣寺を見学などとても楽しい山行になったのではと思っています。実は銀閣寺の見学は予定外で、総会の開始時間が遅れるかもしれないとひやひやしたくらいです。

その後、総会・懇親会と滞りなくおこなわれました。懇親会では、懐かしの写真を展示したボードの閲覧や各年代の挨拶、お決まりの全員での

合唱など、皆さん昔に戻って楽しまれておられました。

### 2.3 総会について

#### 1. 会長挨拶

末国会長から挨拶があり、さらなる OB 会員の増加を会員それぞれが呼びかけてほしいことや、各地で総会を開催し、全国規模で盛り上げてほしいということが述べられました。

#### 2. 議長選出

田村公三さんが拍手により選出されました。

#### 3. 議事

##### ● 経過報告

年一回の総会、年 2 回の通信発行、ノートパソコンの購入 (インターネットには未接続、会計作業のみ) が報告されました。

##### ● 会計報告・監査報告

2004 年の会計について監査の報告がなされ、承認されました。(前章“2004 年会計報告”を参照)

##### ● 来年の活動

東京での開催、名称とワッペンを次回通信に掲載および総会での決定、来年の通信 2 回発送が示され承認されました。

- 今後の活動方針  
事務局の負担軽減、事務局パソコンのインターネット接続、通信の年1回発行が示されました。

#### 4. 役員改選

会長、副会長ともに多くの拍手により再任されました。

#### 5. その他

- 会長  
「新しい規約では2年で改選でしたが、今後どうするかを検討していきたい。次の改選ではバトンを渡したい」と述べられました。
- 永沼嗣朗さん  
「ワングルの機関紙を探している。38年からあるはずだが知っていれば書いた人やその時の主将を教えて欲しい」とのことです。

口座記号番号 01530-0-16050

加入者名 山口大学ワンダーフォーゲル部

個人会員年会費 2,000 円

夫婦会員年会費 3,000 円

会費納入は上記の倍数で御支払い下さいますようお願い申し上げます。

## 2.7 入会、脱会について

初めて入会される方、再度入会される方は会費振込を意思表示とさせて頂いておりますので、お手数ですが、前記の口座にお振込み頂きますようお願い申し上げます。

会費未納の場合は、自然脱会となりますので、会費のお支払いはお忘れなきようお願い申し上げます。

事務局より

## 2.4 2005 年 会計報告

総会にて承認となりました。詳細につきましては前章に2004年会計報告と監査報告を掲載しております。

## 2.5 2005 年 関西総会・懇親会会計報告

総会での会計報告の詳細を前章に掲載しております。次項に出席者名簿を掲載しておりますので一緒にご覧ください。

## 2.6 OB 会費納入について

2005年、2006年分OB会費を納入されていない方はお手数ですが、郵便振込にて下記へ納入して下さいようお願い申し上げます。なお、2004年分OB会費が未納の方は自然脱会となっております。

## 第3章

# 現役活動報告 -本部-

### 3.1 執行部近況報告

45期主将 上岡敬巧

部員数は現在3年生1人、2年生3人、1年生5人で夏合宿前に1年生が1人辞めただけでした。今年の1年生の人数は少なく、特に来年本学に残るのはメツチェンが1人だけなので、来年の新入生勧誘が重要になってきます。がんばっていきたいと思います。

夏合宿は残念な結果に終わり、1年生には申し訳なく思っています。

夏合宿も終わり、後期のトレでは駅伝に向けランニング中心にがんばっています。トレでは上級生が実験などでなかなか参加できないので、トレの時間を今までと変えたり、グループを2つに分けたりしてやっています。少ない人数のトレがあり、さみしい感じもありますが、新鮮な気持ちでトレができ、時間にも余裕が生まれたように思います。

今年のワングルの行事もほぼ終わり、新執行部承認部会も始まっており新年からは新たな執行部でのワングルが始まる予定です。

今年1名で執行部をやってきましたが、失敗した点も多く反省することが多い一年でした。次の執行部でもよい部にしていって欲しいと思います。

### 3.2 夏合宿結果報告 南アルプス 鳳凰～甲斐駒～仙丈

PL 上岡敬巧

今回夏合宿のPLを務めました上岡です。今年は南アルプスの鳳凰三山、甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳を6泊7日で予定していました。台風で早めに下山してしまい日にちは8月21日から8月24日にかけてでした。それでは詳しく報告したいと思います。

A P 1 8/21 (曇り) たくさんの差し入れを頂き、湯田温泉を出発しました。台風も近づいていましたが速度も遅かったので出発を判断しました。湯田温泉では元気だったメンバーもプレ合宿の疲れと鈍行列車ですぐに元気がなくなり、寝る者も多くいました。広島駅でもOBの方から差し入れを頂きました。

広島のあたりで列車のダイヤの乱れがあり、乗り換えが慌ただしくなりました。この時P-menの1人が背中の筋を痛めてしまい、ザックなど荷物を他の者が持って電車の中を移動しました。なかなか痛みは治まりませんでした。アプローチなので様子を見ながら移動をすることにしました。

大垣駅からは夜行列車に乗り、明日の朝に東京駅です。

A P 2 8/22 (曇り) 東京駅から甲府駅へ、そこからバスで夜叉神の森へ移動しました。この日

は夜叉神峠小屋まで登る予定でしたが、昨日背中を痛めた者がまだ回復しないので、夜叉神の森でテントを張ることにしました。

1日目 8/23 (雨) この日は朝から雨、背中を痛めている者も少し良くなっていましたが、まだザックなどを背負うことができないのでこの日は沈。トランプなどを楽しみました。

この日の22時の天気図で台風が着実に近づいており、明日には町に下りることにしました。

2日目 8/24 (雨のち曇り)

夜叉神の森出発 5:14

6:03 夜叉神峠到着

コースタイム 1:36

昨日まで体の調子が悪かった者もサブザック程度なら持てるようなので、この日で合宿を終える予定でしたが、雨が止めば夜叉神峠に行こうと思いい、夜が明け、雨が止んだので夜叉神の森を出発しました。夜叉神峠では雲の合間から白嶺三山が見え、今年の夏合宿、唯一眺めがあるところでした。ここでのんびりとした後ゆっくり下山しました。再び夜叉神の森に着き、鉱泉に入り、松本の県森へ行きました。

3年はこれで最後の合宿になりました、今回の合宿では台風の予測をきちんとしておけばと思いました、甘い考えで出発してしまい、結局ほぼ山行もできず、残念でした。

最後になりますが、今回夏合宿にむけて、いろいろ準備が不足していた中、叱咤激励してくれた先輩方、そしてついてきた P-men の皆様、本当にありがとうございました。

### 3.3 アフター紹介 富士山

PL 清水和也

アフターで富士山に行ってきました。その報告をしたいと思います。

1日目

9:46 着	富士吉田駅	10:00 発
10:38 着	浅間神社	12:20 発
14:03 着	中ノ茶屋	14:24 発
15:50 着	馬返し	

一日目は松本から電車に乗り継ぎ富士吉田駅で下車、そこから馬返しまでの長いロードが一日目の行程です。

残念ながら富士山は雲がかかってました。

富士吉田駅からまず浅間神社に行きそこでエッセンをとったのですが、合宿で余ったバナナチップスの量が多くてみんな食い地獄になっていました。

神社からは富士山麓の豊かな自然を眺めながらロードを歩いていきました。強い日差しと差し入れと、さらに予備ポリもあってかなりきつく、ロードを通っていく車に腹が立ちました。行程も終盤になるとみんな疲れているようでしたが、二年生は工程中に歌を歌うほど元気でした。なぜあんなに元気なのか不思議です。

そうこうしているうちに一日目のテン場の馬返しに到着です。終わってみれば最終到着時刻の10分前と余裕が全然無かったです。まだ一合目にも来ていないというのに...

明日の行程も長いのでちょっと不安です

2日目

	馬返し	4:00 発
7:00 着	井上小屋	7:20 発
8:27 着	五合目	8:45 発
13:08 着	鳥居荘	

二日目は馬返しから八合目まで一気に行く予定でした。

ここから五合目までは、展望のほとんど無い樹林帯の中を進んでいきました。

同じような登山道が続き、たまにある小屋の跡が新鮮でした。

この日はずっと登りの道でしたが差し入れが

減っていて、天気もくもりだったので五合目まではけっこうサクサク行けました。

五合目に到着すると富士山の頂上が見え、P - menから歓声が沸き、テンションも上がりました。

ですがここから傾斜もきつくなり、だんだんP - menの元気が無くなっていきました。歩くスピードも上がらず、七合目までくると最終到着時刻も迫ってき天候も急に悪くなってきたので、本部やP - menとの相談の結果、やむをえず七合目の鳥居荘に泊まることにしました。

### 3日目

	鳥居荘	6:30 発
7:11 着	太子館	7:30 発
8:16 着	白雲荘	8:46 発
9:25 着	胸突江戸屋	

3日目は昨日行くはずだった胸突江戸屋まで行きました。

5時出発の予定でしたが雨が止まず、天候が回復した6:30に出発しました。

この辺りまで来ると空気が薄いのか、少し登っただけで息が切れます。

富士山は外国の方がとても多く、登山者の半分ぐらいいるんじゃないかというくらいでした。

山大ワンゲルとして、しっかりコミュニケーションときました。

胸突江戸屋に着く頃には天気もかなり回復していてやっと下界が見えるようになりました。

富士山から見る夕日はなんとも言えず、下の町並みと相まってすばらしかったです。

### 4日目

	胸突江戸屋	3:33 発
4:42 着	山頂	7:20 発
8:25 着	胸突江戸屋	8:50 発
9:37 着	太陽館	10:00 発
12:11 着	須走り五合目	

四日目は頂上で御来光を見るため、小屋にザックを置き、サブザック行動で登頂です。3時30分に出発しました。

頂上に行くにつれて人も多くなり、最終的には大渋滞となってしまいました。

なんとか日の出前に山頂に着いたのですが、出発時には快晴だった天気がいつの間にか山頂に雲がかかってしまい、残念ながら御来光は拝めませんでした。その後お鉢周りをする予定だったのですが、ガスが晴れず天候の回復を待ったのですが結局カットして下山ということになりました。P - men全員残念そうでした。

胸突江戸屋でザックに詰め替え、後は下山あるのみです。下山で砂走りを通ったのですがこれがとてもおもしろく、本当に走るように下山できます。しばらくしたら足がガクガクになりましたけど...

2:30 ぐらいで須走五合目につきこれでアフター終了です。

最後に、アフター行方でお世話になった本部の方や諸先輩方に感謝したいと思います。特に工学部のメンバーには多大な迷惑をかけました。すいません。とにかく本当にありがとうございました。

### 3.4 春合宿紹介 奄美大島ロードワンデリング

PL 田中歩希

こんにちは、春合宿のPLを務めさせていただく理学部自然情報科学科、2回生、田中歩希です。今回の春合宿は、奄美大島でロードWに行ってきます。奄美大島は、亜熱帯気候なので、マング

ローブやヒカゲヘゴなどの亜熱帯気候独特の植物などが見られます。他にも国の特別天然記念物に指定されているアマミノクロウサギや、ルリカケスなどが見られるかもしれません。しかし、なんと言ってもやっぱり海がきれいです。南の島ならではの透き通るマリンプルーの海。そしてさんご礁。見るものの心を綺麗にしてくれるはずです。

1日目 高知山展望台にいきます。展望台からの景色は、奄美10景に選ばれるほどキレイで、古仁屋の町並みや加計麻呂島や、太平洋が見え、夕日のときはものすごくきれいです。

2~4日目 2日目からはずーと海岸線沿いがあるいていきます。奄美の海はきれいでずーと見てもきつと飽きないでしょう。2日目、3日目、4日目と海沿いを歩いて奄美の海を満喫できると思います。

5日目 今回の目玉のひとつであるマングローブに行きます。奄美のマングローブは西表島について第二位の規模を誇り、ここでしか見ることができません。海から陸にきて気分転換にもなります。

6日目 6日目が最終日です。名瀬まで歩いていきます。最後、おがみ山公園で終わりですが、ここは、名瀬市街地にもかかわらず、亜熱帯植物が群生しており、ハイビスカスなどの花も見れるかもしれません。ここから、名瀬市街地と太平洋を一望して今回の春合宿は終わりです。

今回の合宿は、色々先輩方々にアドバイスや、試料を貸していただいたりと色々お世話になりました。ありがとうございます。まだ、PLとして色々と至らない点があると思いますが、P-menが楽しんでくれるようにがんばろうと思います。

## 第4章

# 現役活動報告 -工学部-

### 4.1 執行部近況報告

45 期主将 上村紘樹

工学部は先日 80km 耐久徒歩が終了し、現在は春合宿の安全対策を行っている最中です。よりよい合宿を目指すため毎回熱い議論が飛び交っています。計画の内容につきましては後述の「春合宿コース詳細」をご覧ください。

夏合宿についてですが、今年も台風に悩まされたためアフターがピフォアという形になり合宿前に行くことになりましたが、アフター中はずっと天気がよく富士山を満喫することができました。しかし、夏合宿前にまた台風の襲来を受けてしまい出発がだいぶ遅くなってしまいました。長い間待ったかいたが合ったかもしれませんが、アルプスは絶景でした。こちら詳しくは後述の「夏合宿結果報告」をご覧ください。

また、最近では学長杯駅伝に向けてのランニングトレーニングを週 1 回行っています。去年は出られなかったため、3 年生は特に気合が入っている模様です。

今年も残りわずかとなり、寒さも厳しくなります。そのため体調管理に気をつけていかなければなりません。最後の合宿である春合宿に向けて部員一丸となり頑張っていきます。

### 4.2 夏合宿結果報告 北アルプス 上高地 ～ 槍～ 常念

PL 岩佐尚美

今年度工学部夏合宿の PL を務めさせていただきました、工学部 3 年生岩佐尚美です。

今回は常に槍ヶ岳を意識したコースでした。今年こそは槍の穂先に、と思わず槍ヶ岳に向かうことにしました。人が多いのではと少し心配もありましたが、台風待ちで 9 月に入山したため静な北アルプスを楽しめました。また、今年度は合宿前に本学のアフターに参加したため AP の日がなく、松本駅出発の形をとりました。

1 日目 9 月 8 日 (晴)

	上高地バスターミナル	9:00 発
10:20 着	明神池	10:47 発
12:52 着	新村橋	13:07 発
13:58 着	横尾山荘	

コースタイム 3:17

今日は良く晴れています。松本で台風をやり過ごし、まだかまだかと待った夏合宿のはじまりです。松本駅から電車で新島々駅まで行き、バスに乗り換えて上高地バスターミナルへ行きました。車窓からは進行方向にアルプスの山々。期待が膨らみます。

上高地は少し曇っていましたが、歩き始めると徐々に晴れてきました。有名な河童橋で梓川を

バックに写真を取りました。観光客の方が多く、アタックザックでいると目立つようでした。すずしい林道を抜けて明神池へ。少し長めに休憩し、池の周りを散策しました。

左に梓川を見ながら進んでいくと今日のテン場横尾山荘です。

2日目 9月9日 (晴のち霧)

	横尾山荘	4:30 発
6:25 着	槍沢ロッジ	6:50 発
7:30 着	槍沢キャンプ地	7:50 発
13:08 着	殺生ヒュッテ	
	コースタイム	5:50

少し寒いですが星の見える良い天気です。暗い中懐電行動で出発しました。川の流が荒くなってきました。道も細くなり少しアップダウンが出てきました。しばらく進んで、槍沢ロッジで休憩しました。緩やかに登って槍沢キャンプ地。この水場は流水で冷たくおいしい水でした。大曲を過ぎるとだんだんとガスに覆われてきました。槍は見えるかなぁと少し心配です。離れていくオッチェンに追いつき追いつき進んで行き、やっと殺生ヒュッテに到着です。ガスで見えるはずの槍が隠れてました。しかしテントを張っている間に一瞬ガスが切れ、槍ヶ岳の姿が！テント設営を一時中断し全員で鑑賞しました。しかしすぐにガスがかかり夕方には真っ白でした。

3日目 9月10日 (霧)

	殺生ヒュッテ	9:00 発
9:50 着	槍ヶ岳山荘	
	コースタイム	0:50

2時起床。トイレに行くのにも足元が見えないほどガスは出ていました。ガスが晴れるのを待って、今日はコースをカットし槍ヶ岳山荘まで出ることになりました。ジグザグに岩場を登りました。天気は悪くとも登山をする人は多く、外国の方もいました。英語で話しかけたのですが、後ろから

来た通訳の方が私たちの英語をきれいな英語に通訳されていました。槍ヶ岳の肩へのカール地形の追い込みは、遠くから見ると非常に急に見えますが、実際はジグザグ登っていくため意外に緩やかでした。テン場で3人でトランプをしました。1人がトイレにたち、戻ってくるなり「槍が見えますよ!!」と叫びました。急いでジョリッパ(サンダル)に履き替え外に出ると、今まで隠れていた槍ヶ岳が目の前に迫っていました。頂上のハシゴが太陽を反射してキラッと光っていました。ガスが晴れたことで、大天井、常念、蝶ヶ岳も見渡すことができました。明日への期待が膨らみます。

4日目 9月11日 (雨と霧)

10:30 沈決定

朝から雨が続いていました。しばらく様子を見ていたのですが、今日の行程に危険箇所があるため沈としました。風でゆれるテントで差し入れを堪能しながら時を過ごしました。昼にはとうとう雨漏りが！沈らしい一日となりました。

5日目 9月12日 (晴)

	槍ヶ岳山荘	5:35 発
6:00 着	槍ヶ岳	6:18 発
6:47 着	槍ヶ岳山荘	7:25 発
8:38 着	ヒュッテ大槍	9:05 発
12:01 着	水俣乗越	12:22 発
14:33 着	槍沢キャンプ地	
	コースタイム	5:05(うちサブザック行動 0:54)

今日は満点の星空！早々にテントを撤収し、ご来光を待ちます。暗い中でも槍ヶ岳に登っている方がいるようで、穂先に懐電の明りが光っていました。槍ヶ岳山荘からはご来光を見ようと多くのお客さんが出てきていました。歓声とともに太陽が昇ってきました。みんな夢中で写真を撮っていました。私たちが出発する時間にお客さんたちは朝ごはんのように人数がぐっと減りました。今がチャンス！サブザックを背負っていざ槍ヶ岳へ！

急な岩場とハシゴを三点支持で登りきると、視界がひらけ頂上です。左右 360° 上下も 180° 以上広がるパノラマを私たち 3 人で独占です。今まで歩いてきた道のりが小さく小さく見えています。見上げると穂高連峰、裏銀座、東西北の鎌尾根、大天井、常念、蝶ヶ岳がぐるっと見渡せました。ピークを満喫したら下りです。登りと違い、ハシゴにかかる一步一步にスリルがありました。長い間緊張して下ると安定した地面に降りた瞬間ものすごく安心するものだなあと感じました。

アタックザックに切り替えて前進です。東鎌尾根は鎌尾根と言うだけあって左右は鋭角に切れ落ちていました。アタックザックの重さに揺られて恐怖はさらに増します。みんな慎重に進んでいきます。ここでの最難所は小ピークを越える三連ハシゴ。急傾斜、長距離なうえ、ハシゴのすぐ手前の道は幅 1 m で左右がガクンと切れ落ちていきます。しかも下の方には災害で落ちたと思えるハシゴが。一人一人が慎重に登りました。小ピークの上からは丸木のハシゴとなっており、これもまた歩きにくいルートでした。進みにくい上に安定感がなく長い距離において続くので、平らな土道がとて恋しくなりました。やっと土道に出たころには、朝は快晴だった空に徐々に積雲が出始めていました。

正午水俣乗越に到着。大幅にコースタイムが遅れていたため、最終到着時刻に間に合わないかと判断してエスケープを決定しました。岩のゴロゴロしたエスケープルートを下り槍沢へ。ここから槍沢キャンプ地に向かいました。しかし槍沢キャンプ地に着いてみると唯一のトイレが故障して今日中の修理は無理とのこと。他にはここから 40 分歩いた槍沢ロッジにしかありません。皆で話し合い、ロッジに行き小屋泊りを決めました。ところが、話を聞いた修理業者の方々が、急いで修理して下さったらしく、槍沢キャンプ地で泊まれることになりました。テントを張り、合宿最後の

エッセンを存分に味わいました。

6 日目 9 月 13 日 (晴)

	槍沢キャンプ地	5:30 発
5:58 着	槍沢ロッジ	6:15 発
8:57 着	徳沢園	9:12 発
11:23 着	上高地バスターミナル	
	コースタイム 4:20	

今日も星のきれいな朝です。この星空ともしばらくお別れです。出発するころには薄い青空になっていました。歩きやすい道を緩やかに下って行き最後の槍の姿に別れをつけました。横尾山荘からは 1 日目に来た道をひき返しました。上高地バスターミナルで合宿終了です。

総コースタイム 19:22 計 30 本

今回目的である槍ヶ岳には、沈みありストレートには行きませんでした。最高のコンディションの中登頂することができました。しかしほとんど縦走することなくエスケープとなってしまう、合宿としては少し物足りなかったようにも思います。エスケープの原因としては危険箇所時間に取られすぎてしまった事があげられます。これから計画を立てる際には危険箇所については特にコースタイムに余裕をもたせるようにと思いました。

最後になりましたが、ご指導くださいました先輩方、差し入れに来てくださった方々、協力してくれた P-men に感謝申し上げます。ありがとうございました。

### 4.3 80km 耐久徒歩結果報告

実行委員長 上村紘樹

このたび 80km 耐久徒歩の実行委員長を務めさせて頂きました工学部応用化学工学科 3 年の上村紘樹と申します。今年は 11 月 12、13 日に 80km 耐久徒歩を行いました。当初、全行程を行う予定

でしたが、直前で本部役員の1人が欠けたため後半のマイペースをカットし、前半の夜間行動のみとなりました。そのため、代替と言ってはなんです。就寝時間を2時間延ばしてレクリエーションを行いました。参加者・本部役員の方々は皆楽しんでいたのでレクリエーションを計画して良かったと思いました。

行程ですが、就寝時間を2時間延ばしたため起床時間も2時間伸び、川島公会堂出発が0時から2時となりました。参加者を3Partyに分けて行動しましたが、終始ゆっくりめのペースで歩いたため、参加者同士の交流も昨年より図れたと思います。当初霧が出ていて前があまり見えないこともありましたが、プレ八耐を行ったことでルートの間違えることはありませんでした。

そして10時前にゴールである道の駅みとうに到着しました。ここで弁当を食べ、閉会式をし、解散となりましたが、参加者の方々は大きな疲労を訴えることもなく、逆にマイペースがないことで少々がっかりしていた方もいらっしゃいました。

以前のOB通信で「ドライバーの仕事の軽減、山岳部の参加、赤字の克服」を目標にすると申しました。私は、完全ではありませんが達成できたと感じております。特に山岳部の参加を成し遂げたことは、私自身大変恐縮ですが一番の出来だったと思います。

しかし、問題点も多々浮上しました。なりより昨今の部員数の減少により、八耐が無くなる危険性が出てきました。後輩諸君にはぜひ頑張って頂き、持続させてもらいたいです。私も来年は陰ながら応援していきたいと思っております。

最後に、この八耐に協力してくださいました本部役員、参加者の方々、先輩方に感謝の意を表します。

#### 4.4 春合宿紹介 in 竹島 サバイバル

PL 大宮拓也

今回の工学部の春合宿は竹島にてサバイバル合宿を行うことになりました。サバイバル合宿ということでコース詳細ということではできませんが、その代わりに竹島がどのような環境の島で、どのようなサバイバル合宿になるであろうか、について紹介します。

今回、合宿を行うことになった竹島というのは日韓領土問題の竹島ではなく、鹿児島南方のフェリーで2時間半のところにある、硫黄島から見えるぐらい隣接している島の事です。この島は人口が100人ぐらいの小村で最西端から最東端に徒歩で横断するのにも2時間半ぐらいしかかからない小さな島で、島の周囲を囲むように切り立った崖になっていることから城塞島という印象を見る人に与えます。また、通の間では釣りの名所として知られ、日本釣り場100選というのにも数えられています。合宿を行う3月にはインダイ、インガキタイといった磯の定番に加え、チヌ、メジナ、オナガ、サワラ(ブリの幼魚)といった魚や、場所によってはイソマグロ(この時期はいないそうですが)といった大物もいるそうです。

また、今回合宿の拠点となるオンボ崎キャンプ場を含む島全域では、あまり森というものは無く、全体的に草原というものが多く(現に島の東半分は牧草地として利用されている)ツワブキ、カラスノエンドウといった野草が群生しているそうです。

キャンプ場に関しては広さにして約テント10張ほどで水場有り、トイレ有りの好条件で近くに展望台などの観光施設もあるようですが島に訪れる観光客はほぼ皆無らしいのでゆったりとしたサバイバルライフが送れると思われれます。

自分にとって2年連続となるサバイバル合宿ですが前回の失敗を教訓として先輩方と協力し、この春合宿を成功させたいと思います。

## 第5章

# その他

### 5.1 Y.U.W.V. ホームページ

山口大学ワンダーフォーゲル部のホームページをご紹介します。OB 通信も掲載しているので是非ご覧ください。

Y.U.W.V. ホームページ URL

<http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/tabidori/>

### 5.2 編集後記

編集 植本洋

編集を終え、今ほっとしています。わたしの仕事はほぼこれで終わりです。後は現役の皆さんに発行までの実務をお願いして、監督するだけとなっています。現役の皆さん、よろしく願います。

今回も編集には  $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$  を使用しています。慣れるまでは扱いづらいのでこのまま事務局が使っていけるかはわかりませんが、綺麗な文章を作成できるのは確かですので、できれば使っていつてもらいたいと思っています。

ところで、わたしもやっと山口を離れます（卒業できそうです！）。大学生活は先輩方と同じようにワンゲルづけでしたので、少々感慨深いものを感じています。思えば馬鹿なことばかりしていたような気がしますが、わたしにあった大学生活を満喫したのではと思います。

最後に、ワンゲルのたくさんのお世話になった方々に感謝申し上げたいと思います。そしてワンダーフォーゲル部、OB 会ともに永く続いていくことを願っています。それでは皆さん、よいお年を！